

国語科

読書力を形成する「読書日記指導プログラム」の構想

細 恵 子

1 はじめに

小学校学習指導要領解説国語編(2008)で、読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を「C読むこと」の「(2)内容」に位置付けている¹⁾。それを受けて多くの学校では、国語科の「読むこと」の単元に、指導要領の中に設定されている言語活動例を参考にして読書活動を取り入れることが多くなった。しかし、読書指導に関する実践書の考察や教師に対するアンケート調査から、現在の小学校における読書指導においては以下のような課題があると考えられる。

①読書指導の目標について

国語科の「読むこと」の授業やそれ以外の学校生活の中で行われる多様な読書活動において、日常の読書生活に機能する力を明確にして指導することが十分できていない。

②読書活動の内容について

読書活動に連続性、系統性は見られず、児童が読書のよさを実感し、自分の読書生活を高めていくことができるものになっていない。

③読書指導(一斉指導)の方法について

読書活動の指導において、「読書力」を書くこと、話し合うことと関連させながら育てることが十分できていない。

④読書指導(個に応じた指導)の方法について

児童一人ひとりの読書の課題に対し、個に応じた具体的な手立てをどのように講じ、それによって児童がどのように変容したかについて明らかにしていない。

これらの課題から、研究の視点として、①「読

書力の明確化」、②「読書力の形成を目指す連続的・系統的な読書活動」、③「書くこと・話し合うことと結びついた指導法」、④「個に応じた指導法」を設定した。そして、前述した現在の読書指導の課題を解決する読書活動は何かを、先行研究から考察し、アメリカのリテラチャー・サークル²⁾と大村の「読書生活の記録」³⁾に注目した。2011年度は、5年生に対し、リテラチャー・サークルと、「読書生活の記録」を参考にした「読書ノート」の実践を行った⁴⁾。その成果と課題を踏まえ2012年度は、書く読書活動に焦点を当て、「読書日記」を考案した。その指導の視点として、①「個に応じた教師の朱書き」、②「児童の自己評価」、③「教師と児童との音声による対話」、④「学級に対する教師の取り組み(児童同士の結びつき)」を設定し、3年生に対し、1年間、実践を継続し、学級全体の成果と個の変容を示した⁵⁾⁶⁾。2013年度は、指導の視点①と④に重点を置き、読書日記を交流することによる、3年児童の読書力の広がりを示した⁷⁾。2014年度は、第1学年において読書日記を「読むこと」の学習にどのように関連づけて指導することが可能であるかについて実践を通して考察した。

また月に一度、教師の読書日記指導の学習会を開き、複数の教師に指導法を教示しながら共に実践を行い、結果について交流している。

本稿では、これまでの理論研究・実践研究の成果と課題を基に作成した、小学校教育における「読書日記指導プログラム」の構想を示すことを目的とする。

2 読書力の定義

研究の視点①の「読書力」については、古市(2011)の分類枠（「読書技術」「読書活動への積極的な態度」「いろんな本やテキストを読む」「読書環境の利用」「読書環境を創造する」「読書習慣」）⁸⁾を考察した上で、「読書技術」を「読書設計力」「選書力」「読解力」「活用力」に分類し、その分類枠により、昭和26年版学習指導要領「読むことの能力表」⁹⁾と増田(1971)の読書能力¹⁰⁾、嶋路(1974)の「長編の読書能力」¹¹⁾、大村(1984)の帯単元「読書」で身につける力¹²⁾、安居(2005)の「読書力」「読書生活力」¹³⁾、吉田(2010)の「優れた読み手が使っている方法」¹⁴⁾を分類した。その中で、大村の目指す力は、読解力とともに読書設計力が多いことから、読書生活を高めることを目指す読書力であることを明確にした。

読解力については、PISA調査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、比較・関連づけのできる「情報の取り出し」、叙述に基づく「解釈」と自分自身の中にある根拠を語る「解釈」、人物や作品に対する「熟考・評価」、自分と関連づける「熟考・評価」に分類した。

設定した「読書力」は図1、表1の通りである。

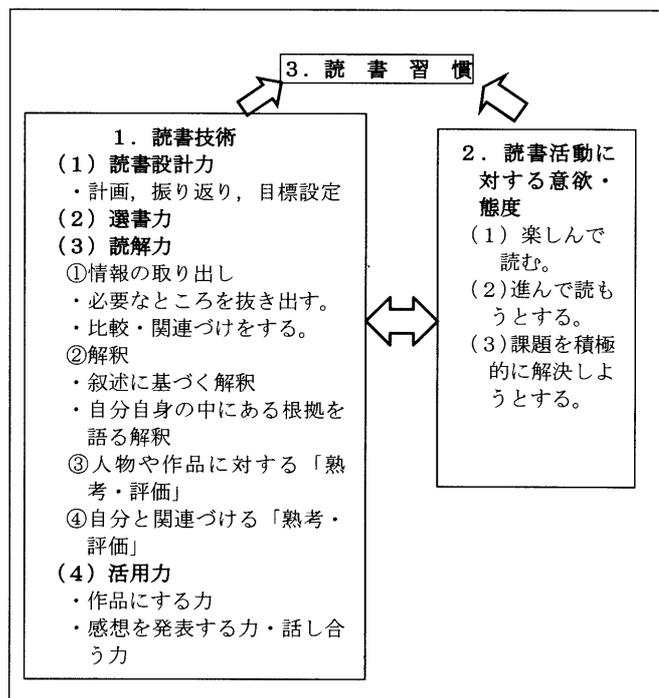


図1 読書力の構造

表1 読書力

1 読書技術	① 読書設計力 ② 選書力 ③ 読解力 (情報の取り出し) ④ 読解力 (解釈) ⑤ 読解力 (人物や作品に対する熟考・評価) ⑥ 読解力 (自分と関連づける熟考・評価) ⑦ 活用力
2 読書活動に対する意欲・態度	⑧ 楽しんで、進んで、積極的に
3 読書習慣	⑨ 自分で読書する習慣

3 読書日記指導の目的・内容・方法

(1) 目的について

読書日記指導の目的を、定義した読書力に基づき、以下のように設定する。

- ①国語科「読むこと」の授業や日常の読書において、読書意欲・態度を育て、日常の読書に機能する読書技術（読書設計力・選書力・読解力・活用力）を形成する。
- ②家庭での読書においても、自分で本を選び、自分の読み方で読書を続けていくことができるようにする。
- ③読書から自分のあり方を考えることができるようにする。

これまで実践してきた第1学年、第3学年、第5学年のどの学年の児童も、質の差はあるにしても多様な読書力を形成していったことから、定義した「読書力」（表1）を児童の実態に即し、年間を通してできるだけバランスよく設定するようにする。国語科「読むこと」の授業で、読書活動に対する意欲や態度、読書技術を育てながら、日常の読書日記指導を行い、最終的に読書習慣を確立することを目指す。日常の読書であまり重視されてこなかった読解力、読書設計力については、次のように指導し、身に付けさせていく。

<読解力>

- ・国語科「読むこと」の授業の目標と関連させながら、精読・多読を通して育てていく。
- ・これまでの筆者の実践において、日本ではまだ十分に浸透していない「自分との関連づけ」「評価・批評」を身に付けさせることが可能だったことから、これらの読みを積極的に取り入れる。
- ・2013年度の実践結果（一人の読書力が他の児童へ広がっていったこと）を踏まえ、国語科「読むこと」の授業で身に付けさせたい読書力以外についても、日常の読書日記の交流を通して広げていくことができるようにする。

<読書設計力>

中学生の読書指導の課題（不読者が増えること、図書館の利用が少ないこと等）を踏まえ、小学生においても自分の読書の仕方や読書のよさについて考える力、自分の目標を決める力などを育てていく。

(2) 内容について

読書日記は、自分の読書生活を築いたり高めたりするための読書活動である。書く量は少なくともよいので年間を通して行い、教師も児童も評価、改善ができるようにしていく必要がある。

基本的には家庭で書き、学校で活用する読書活動である。

児童がこれまで書いた読書日記の内容から以下のような内容を書くことにする。

本を読んだ感想

1日で読める短い本であれば全部読んでから書く。長い本の場合や、読書時間が短い場合は、読んだところまでについて書く。国語科で学んだ読み方で書く。自由な読み方で書く。

本の選び方

「自分がどのようにして本を選んでいくか。」

「どんな本を選ぶか。」などについて書く。

自分の読書の仕方

「家庭でどのくらいの時間読書をしているか。」「いつ読んでいるか。」「どんな本をよ

く読んでいるか。」「どのように読んでいるか。」などについて書く。

本に対する自分の思い

「どんな本が好きか。それはなぜか。」「本は好きか、嫌いか。それはなぜか。」「本を読むとどんないいことがあるか。」などについて書く。

自分の読書日記を読んだ感想と次の目標

教師の朱書きを基に、「自分がどんな本についてよく書いているか。」「どんな読み方ができているか。」「どんなことをしていけばよいか。」「これからどんな本を読みたいか。」などについて書く。

友だちの読書日記に対する感想

友だちの読書日記を読んで思ったことについて書く。

以上のように、単に感想を書くだけではなく、読書に関する幅広い内容を書くことで、自分の素直な思いを自由に表出できるようにしていく読書活動である。

(3) 方法について

①読書日記との出会い

学年の始めには、読書日記と日記の違いについて以下のように話す。

○ 「日記」には、自分のしたことや見たこと、聞いたこと、想像したこと、考えたことを書くが、「読書日記」は、本を読んで思ったことや読書について思うことを書くだけでなく、自分の読書生活を高めることを目指すものである。

○ この読書日記を1年間書き続けると、次のよさがある。

- ・本の読み方が分かるようになる。
- ・書くことに慣れ、自分の素直な思いを書くことができるようになる。
- ・自分の読書の仕方について考え、目標を持って読書をしようとする。
- ・本の内容から自分を見つめ、自分のこれからのことを考えることができるようになる。

- ・友だちと本のことで話ができるようになり、仲が深まる。
- ・本を読む習慣が付き、本が好きになる。

②読書日記の書き方

初めて書くときには抵抗があるものである。そこで、2014年度の実践を踏まえ、始めは「読むこと」の授業と関連させながら書き方(型)を示す。また、「書き方のてびき」を作成し、読書日記の表紙裏に貼らせ、いつでも参考にすることができるようにする。この「てびき」には、定義した読書力の中の読書技術が含まれるようにする。次第に友だちの読書日記から、自由な書き方を紹介し、型を破って自分らしい書き方ができるようにしていくことも必要である。

③読書日記の使い方

1) 教師や自分との対話

書き方としては、児童が教師に向けて書く方法と自分自身に向けて書く方法がある。高学年になると、自分自身に向けて書くこともあるが一般的には、教師に向けて書くことになる。つまり、児童と教師がノートを通して対話するということがある。

2) 交流

児童の読書日記を朝の会で読み聞かせたり、学級通信などで紹介したり、教室に展示したりして、読み方や考え方などについて学び合うことや読書力を広げていくことができるようにする。

3) 活用

国語科「読むこと」の単元が始まる前に、関連図書を用意しておき、自由に読めるようにし、読書日記にも自由に感想を書くことを勧める。読み方を学習した後は、2014年度の実践結果を踏まえ、その読み方を自分が選んだ本で活用して読書日記に書くことを勧める。また、日常的に書いている児童の読書日記を「読むこと」の授業で活用することもできるようにする。

話し合うこととの関連を図るようになるためには、リテラチャー・サークルやブッククラブ¹⁵⁾を日本型に改善した読書会を設定し、その前後に、教科書教材で学んだ読み方で本を読み、読書日記

に書くようにする。ただし、読書会の後に位置づけている読書日記については、児童の実態や学級での指導時間等に応じて、全員に書かせるか、自由に書かせるか決めるとよい。一斉授業の中の読書会では、教科書教材で学んだ読み方で本を読めるようにするが、日常の読書日記でできている他の読み方も必要に応じて取り入れていく。

また、まとまった感想文を書いたり、本の紹介をしたりするために、日常的に書いている読書日記を活用することができるようにする。

④朱書き

読書力に基づき、大村の「てびき」¹⁶⁾を参考にし、以下のように朱書きを行っていく。

- ・できた読み方や考え方について肯定的な評価の言葉を書く。
- ・もっと深めたいこと、広げたいことについて、書き出しの言葉を書き、それに答えさせる。
- ・選書や読み方についてアドバイスをする。
- ・その本を読むよさ、読書に対する教師の思いを伝える。

4 読書日記指導プログラム(第1学年)

2014年度の実践を踏まえ、表1「読書力」に基づいて作成した、「読書日記指導プログラム(第1学年)」を示す(表2)。指導プログラムの中の番号は、表1の読書力の番号である。

読書日記は日常的に行うものであり、児童の自由性を大切にするが、読書日記の指導と国語科「読むこと」の授業をすべて切り離してしまうと、日常生活において自分で本を選び、自分の読み方で読む力や読書生活を築いたり高めたりする力を高めることはできない。そこで、読書日記には自由に書くことを基本としながら、読書日記を国語科の「読むこと」と関連させながら指導していくことのできるプログラムを作成した。

この指導プログラムは、児童の実態と教師のねらいにより変更が可能なものである。例えば、国語科の教科書教材が入っているが、学校で使っている教科書教材に変え、その教材の特徴からつけ

たい読解力を定めるとよい。本を紹介する活動についても児童の実態と教師のねらいに応じて決めるとよい。また、低学年であっても実態に応じ、今後作成する第3学年の指導プログラムの中から取り入れてもよい。

次に、表について読書力に沿って説明していく。

<読書日記導入までの土台づくり>

表の中の① ② ③は、読書日記を書くまでの土台となる意欲や感想を育てる指導である。2014年度、第1学年の実践を基に取り入れた。ここで、読み聞かせ、交流型読み聞かせという楽しい活動の中で自分と関連づける読み方を学ぶこともできるようにしている。感想を表す語彙を育てることは今後、「熟考・評価」の力を高めていくために有効であると考えられる。

<読解力>

2014年度、第1学年の実践を基にしている。

④では、国語科の授業で読み方を学び、⑤では、日常の読書でもその読み方を活用できるようにする。⑤で活用した読み方は次の⑥の国語科授業で取り上げ、習熟を図ることを目指す。⑥で学習した読み方は⑦や⑧で活用できるようにする。日常の読書でできた新たな読み方は⑦で取り入れたり⑧で紹介したりする。読み方の習得・活用については、⑨～⑩、⑫～⑭、⑮～⑰も同様である。

<選書力>

同じテーマの本の読書をさせる際には、本の選び方を指導する。最初の段階では、教師が用意した本の中から選ばせることが多いが、1年間の途中で⑱のように自分の本の選び方を振り返り友だち同士で交流する活動を取り入れるなどして、1年の終わりごろには、⑲のように自分で自由に選ぶ力が身につくようにしたい。

<活用力>

2014年度、第1学年の実践を基にしている。

ブッククラブ等の読書会で自分の読書日記をも

とに話し合い、読みを広げたり深めたりすることを目指す。ブッククラブ等の読書会を1年間に2回設定した。また、本の紹介や感想文を書く活動も取り入れ、読書日記を基に多様な表現方法を経験することができるようにしたい。

<読書設計力>

2012年度、第3学年の実践を基にしている。

1年に2回ぐらいは、自分の読書日記を読み直し、読書について考えられるようにする。

<読書日記の書き方>

2014年度、第1学年に対して実践したように、最初頃は読書日記の書き方を教師が示し、視写をさせることで書き方の理解を図るようにするが、慣れたら自由に書かせ、友だち同士で学び合うようにしたい。型から入るが次第にそれを破り、自分の書き方を見出していくよう導いていく。

このように、国語科との関連を図り、意図的な指導を入れ、読書技術を含む多様な力を育成していく。もちろん、読書日記は日常的に取り組んでいくものなので、児童の自由読書を基本とし、型にはまらない自分らしい書き方を求めていくようにしなければならない。新しい読み方、学習した読み方が児童の読書日記に見られたときには、2013年度に第3学年に対して実践したように、朝の会で読んだり、または学級通信で紹介したりし、学級全体へ広めていくようにする。

5 今後の課題と展望

本稿では、第1学年の指導プログラムを示した。今後、第3学年と第5学年の指導プログラムの構想も示す予定であるが、6年間の系統性については課題が残っている。その課題について、今後の展望を交えながら述べる。

これまでの4年間の筆者の研究では、第2、4、6学年の実践結果は得られなかった。そのため、限られた実践結果から指導プログラムが作成され

ていると言える。

本研究では、各学年での1年間において螺旋的な指導と系統的な指導を取り入れているが、第1学年から第6学年までの系統性は十分明らかにされていない。今後は、実践を幅広く集め、低学年、中学年、高学年で形成する読書力の重点指導事項を定め、系統的な指導と螺旋的な指導を明らかにする必要がある。

国語科との関連については、日常の読み方がどのように授業で活用されるのか、授業で学んだ読み方が日常の読書の中でどのように活用されるのかをさらに長期的に分析する必要がある。

本研究では、国語科や日常の生活において精読や多読を取り入れることで、自分なりの方法で読書をして読書習慣を身に付けていくことができるようになった児童もいるが、各学級の中で1年間を通してあまり変化しなかった児童も数名いる。国語科で読み方を学んだ直後は教師の指導もあり、日常の読書でも関連した本を、学んだ読み方で読み、読書日記に書くことができるが、教師が指導・助言をしなければまだ自分で本や読み方を選ぶことや生活の中に読書を入れていくことが難しい児童もいる。これまでの実践では、真面目に話を聞き、教師の指導や友だちの読み方を素直に受け入れていく児童は、読書日記指導により短期で伸び、自分で読書を進めていくことができるようになっていった。このことから、これらの児童の育成から、他の児童へ読書力を広げていくという見通しをもち、読書の課題をもつ児童が読書日記による交流を通して本の選び方や読み方を学ぶことができるようにしていく。

<引用・参考文献>

- 1) 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社, p. 4
- 2) Daniels, H. (1994). Literature Circles: Voice And Choice in the Student-Centered Classroom. Stenhouse Publishers.
- 3) 大村はま (1984) 『大村はま国語教室 8—読書生活指導の実践(二)—』筑摩書房, pp. 405-432
- 4) 細恵子 (2012) 「小学校教育における読書活動の支援」難波博孝・山元隆春・宮本浩治編著『読書で豊かな人間性を育む児童サービス論』学芸図書株式会社, pp. 136-149
- 5) 細恵子 (2013) 「読書力を育成する読書日記指導の実践—小学校3年生の場合—」『国語科教育』全国大学国語教育学会, 第74集, pp. 70-77
- 6) 細恵子 (2012) 「主体的な読み手を育てる読書生活指導に関する研究—小学校3年生の読書日記を中心に—」『広島大学附属三原学校園研究紀要』広島大学附属三原学校園, 第3集, pp. 47-54
- 7) 細恵子 (2013) 「児童の読書力形成に果たす読書日記の役割—小学校3年生における読書日記の交流とその分析を中心に—」『広島大学大学院教育学研究科紀要第一部』広島大学大学院教育学研究科, 第62号, pp. 147-156
- 8) 古市果菜絵 (2011) 「自立的な読書人をはぐくむ読書指導の提案」広島大学大学院修士論文
- 9) 増田信一 (1997) 『読書教育実践史研究』学芸図書, pp. 152-155
- 10) 増田信一 (1997) 『学び方を養う読書の学習』学芸図書株式会社, p. 14
- 11) 嶋路和夫 (1974) 「国語科における読書単元の再構成と長編読書の指導」『読書科学』日本読書学会, No. 17, p. 94
- 12) 前掲3)
- 13) 安居總子 (2005) 『読書生活者を育てる』東洋館出版社, pp. 34-35
- 14) 吉田新一郎 (2010) 『「読む力」はこうしてつける』新評論
- 15) T・E・ラファエル, L・S・パルド, K・ハイフィールド, 有元秀文訳 (2012) 『言語力を育てるブッククラブ』ミネルヴァ書房
- 16) 前掲3), pp. 380-387

表2 読書日記指導プログラム（第1学年）

月	教科書	読書に関する目標	読書力	読書日記の指導方法	読書日記に書く内容
4		1 本に興味をもつことができるようにする。	⑧	朝の会の時に絵本の読み聞かせをする。	
		2 一言感想の語彙を広げる。	⑤	交流型読み聞かせ（読み手と聞き手、または聞き手同士が交流する読み聞かせ）を行い、登場人物の思い、登場人物に対する自分の思い、これからの話の予想などについて交流する。一人の感想からつなげていき、多様な表現ができるようにする。 児童から出た感想の言葉はカードに記録し、教室に掲示する。（今後の学習に役立てる。）	
5		3 自分と関連づけながら一言感想を話すことができるようにする。	⑥	朝の会の時に絵本の読み聞かせをする。 「自分だったら・・・」「今まで似たことは・・・」などについて交流する。	
6	たぬきのじてんしゃ	4 物語文において、主人公に対する感想を話し合えるようにする。	⑤ ⑥	同じ作者の本や主人公の動物が出てくる簡単な絵本を学級文庫に用意し、紹介する。 てびき「感想の言葉」を一人ひとりに渡し、言葉を引き出す手がかりとする。 交流型読み聞かせを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を入れた感想（主人公に対する感想） 例：○○は、・・・したから・・・と思いました。自分だったら・・・すると思います。自分も・・・がありました。 など
		5 読書日記を導入し、根拠や理由を入れて主人公に対する感想を書くことができるようにする。	⑤ ⑥	読書日記の書き方を示し、視写をさせる。 児童の書いてきた読書日記を朝の会で読み聞かせたり、学級通信で紹介したりして、学び合うことができるようにする。	
7	おおきなかぶ	6 物語文で繰り返し出てくる言葉や繰り返されていること、人物に対する感想を書くことができるようにする。	③ ⑤	繰り返しのある絵本を学級文庫に用意し、自由に読むことができるようにする。 今までに学んだ読み方で読み、感想を書くことができるようにする。 日常の児童の読書日記（根拠や理由を入れた感想の書き方）を紹介し、習熟を図るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を入れた感想 例：○○が・・・にしたところが・・・でした。・・・したので・・・と思いました。
		7 読書会で、同じ本を読んだ者同士が話し合えるようにする。	② ⑦ ⑧	本の選び方を指導し、（文字の量、登場人物）教師が用意した本から1冊気に入った本を選ばせ、学んだ読み方を活かしながら自由に読書日記に書かせる。 日常の読書日記でできている読み方があれば取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉 ・繰り返されていること ・根拠や理由を入れた感想など
		8 繰り返しのある本を読み、繰り返し出てくる言葉や人物に対する感想を読書日記に書くことができるようにする。	③ ⑤	読書日記の書き方を示し、視写をする。 児童の読書日記を朝の会で紹介したり、展示したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉 ・根拠や理由を入れた感想など
9	うみの水はなぜしょっぱい	9 昔話のおもしろいところを見付けたり、人物同士を比較したりすることができるようにする。	③ ④ ⑤	教科書教材と似た話を読み聞かせ、興味をもたせる。 学級文庫に昔話を用意し、自由に読み、感想を読書日記に書くことができるようにする。 国語で読み方を学んだ後は、それを活かして書くことを勧める。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいところ ・人物の対比（○○は・・・だけれども、△△は・・・） ・話から教わったこと
		10 昔話を読み広げ、読書日記に書くことができるようにする。	② ③ ④ ⑤	自由に書かせる。 児童の読書日記を紹介し、多様な読み方・書き方を学び合うことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいところ ・人物の対比（○○は・・・だけれども、△△は・・・） ・人物に対する評価 ・話から教わったことなど
10		11 読書日記を振り返り、自分の読書の目標を決めることができるようにする。	① ⑨	これまでの自分の読書日記と朱書きを読ませ、自分のできた読み方等について自覚できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができた読み方 ・自分がよく読んだ本 ・これからがんばりたいこと

細：読書力を形成する「読書日記指導プログラム」の構想

11	はじめは「やー」	12 物語文において、友だちを思う行動や会話文に着目し、自分の好きな文を選び、感想を書くことができるようにする。	④ ⑤ ⑥	友だちをテーマにした絵本を学級文庫に用意し、自由に読み、感想を読書日記に書くことができるようにする。 児童から出た感想の言葉をカードに書き、教室に掲示する。 国語で読み方を学んだ後は、それを使って読書日記に書くことを勧める。	・人物の気持ち ・人物に対する自分の思い ・もし、自分が〇〇だったら・・・ ・今まで自分は ・これから自分は など
		13 なかよしの友だちが出てくる本を読み、ブッククラブを行う。	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	本の選び方を指導する。(題・帯・人物・表紙の絵など) 教師が用意した本から1冊選ばせ、学んだ読み方を活かしながら自由に読書日記に書くことができるようにする。 読書日記を基に話し合うことができるようにする。	・人物の気持ち ・人物に対する自分の思い ・もし、自分が〇〇だったら・・・ ・今まで自分は ・これから自分は など
		14 なかよしの友だちが出てくる本を読み、好きな文とそれについての自分の感想を読書日記に書くことができるようにする。	② ④ ⑤ ⑥	児童の読み方・書き方を学び合うことができるように、展示する。	・人物の気持ち ・人物に対する自分の思い ・もし、自分が〇〇だったら・・・ ・今まで自分は ・これから自分は など
		15 紹介したい本を選び、ポップづくりをすることができるようにする。	⑦ ⑧	ポップの作り方を指導する。 読書日記の中から紹介したい本を選ばせる。	・あらすじ(一文) ・感想
12		16 本の選び方を振り返り、できていること、できにくいことについて書くことができるようにする。	①	学校図書館で本の選び方について交流させる。	・できていること ・できにくいこと
1	くらしをまもる車	17 説明的文章を読み、感想を書くことができるようにする。	③ ⑤	学級文庫に図鑑や資料を用意し、自由に書くことができるようにする。	・はたらき ・くふう ・分かったこと ・もっと知りたいこと
		18 図鑑で乗り物について調べ、読書日記に書くことができるようにする。	③ ⑤	読書日記の書き方の例を示す。	・はたらき ・くふう ・わかったことなど
2		19 これまでの読書日記を振り返り、自分の伸びを実感するとともに、次の目標をもつことができるようにする。	① ⑨	読書日記の展示をして読み合い、自分の読書生活を考えるきっかけとする。	・できるようになったこと ・これから読みたい本 ・これから読書でがんばりたいこと
	20 読書感想文を書くことができるようにする。	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	これまでの読書日記から本と書きたいことを選ばせる。	・自分で読み方を選ぶ。	
3	ろくべえまつてろよ	21 物語文において、人物同士の関係を読み取り、読書日記に感想を書くことができるようにする。	④ ⑤ ⑥	学級文庫に動物と人間の関係を描いた物語を用意し、自由に読み、読書日記に書くことができるようにする。 国語で読み方を学んだ後は、それを活かして読書日記に書くことを勧める。	・人物の気持ち ・人物に対する自分の思い ・今までの自分 ・これからの自分のあり方
		22 命や協力・団結を考えられる本を読み、ブッククラブを行うことができるようにする。	② ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	学級文庫に命や協力・団結を考えられる本を用意する。 教師が選んだ本から1冊選ぶことができるようにする。 読書日記を基に話し合うことができるようにする。	・人物の気持ち ・人物に対する自分の思い ・今までの自分 ・これからの自分のあり方など
		23 命や協力・団結を考えられる本を読み、読書日記に書くことができるようにする。	② ④ ⑤ ⑥	本の選び方を指導し(表紙、題、図書室の先生、図書室のコーナーなど)、自分で選べるようにする。 読書日記を展示し、互いに読み合えるようにする。	・人物の気持ち ・人物に対する自分の思い ・今までの自分 ・これからの自分のあり方など